

## 飛鳥資料館春期特別展

「キトラ古墳と発掘された壁画たち」

平成18年4月14日(金)～6月25日(日)

(5月11日は臨時休館)

現在、キトラ古墳の壁画の保存処理が進められていますが、今回、関係諸氏・諸機関のご配慮、ご協力のもと、5月12日(金)～28日(日)の17日間という短い期間ではありますが、保存処理を終えた出土壁画のうち、状態良好な「白虎」を展示・公開できることになりました。

そこでキトラ古墳の壁画公開に先立ち、本展覧会では、高精細写真をもとに製作したキトラ古墳石室の実物大模型を展示し、さらに、近年注目を浴びている古代の寺院壁画として、法隆寺若草伽藍跡(奈良県斑鳩町)、上淀廃寺(鳥取県米子市)、日置前廃寺(滋賀県高島市)、山崎院跡(京都府大山崎町)など、日本各地で出土した貴重な壁画の一部を展示します。

また、我が国の古代壁画の源流をたどる上で不可欠な高句麗壁画古墳の四神模写も展示します。この模写は、建築史家・関野貞らによる1912～14

年の高句麗古墳の発掘調査にともない製作された貴重なもので、実大で精緻な描写から、古代壁画の圧倒的な迫力を実感できることでしょう。

キトラ古墳の壁画の公開は、壁画保存の観点から期間限定となっておりますが、発掘された古代絵画の新資料とあわせて壁画研究の最新成果、またその保存のためになされている様々な努力をご案内し、古代絵画のさらなる魅力をお伝えします。

(飛鳥資料館 清永 洋平)



キトラ古墳の白虎